



孤独死の現場から柴♂五郎丸

新年を迎えての所感

能登地震から1年がたちました。テレビ越しに見るガレキの山、未だに復興には遠く、現地の方々が苦悩しておられることに胸が痛みます。

昨年は総理大臣が代わり、政局も動き、103万円の壁が大きな話題となりました。世の中は、多様性や多極化で溢れて、今まで想像していなかった新しい社会に向かっています。時代遅れでは取り残されるのでしょうか。

移ろいゆく時間の中、何を見て、何を感じて、私たちは小さな命と向きあっているのか。もはや、その一つ一つは、事務的であり、作業であり、あらゆる情熱を失ったようです。それでも、毎日の課題をこなしながら、犬や猫の引取相談は後を絶たず、心を悩ませています。

命の優劣はない、命はお金では買えない。

そう思いながらも、いろいろな条件で取捨選択して、受け皿から溢れた命を切り捨てていることに苛立ちがあります。

こうした決して小さいとはいえないストレスを抱え込み、それでもこの活動続ける意義を考えています。

特別な意義がなくても、「負けない事・投げ出さない事・逃げ出さない事・信じ抜く事・駄目になりそうな時それが一番大事」とある歌の一節をふと思い出しましたが、迷いのある心へ励みになりました。

新年早々、「孤独死」により取り残された犬の引き取り相談が2件、立て続けにありました。

1頭は10歳のシーズー犬。2頭目は9歳の柴犬。飼い主さんは一人暮らしの女性で、年齢は80歳前後です。70歳前後から子犬を飼い始めています。お元気であれば、終生飼育も可能だったかもしれません。でも、「平均寿命」と「健康寿命」は違います。

昨年末は70代半ばの病気の飼い主さんからMダックス9歳の引き取りもありました。

70歳を過ぎたら、何らかの健康問題が出てくるであろうことを想定して、大切な家族である犬や猫が取り残されないような手立てを考えておく必要があるかと思います。



飼い主さんの病気で放棄、ダックス♂ラッキー
孤独死の現場からシーズー♂トミー10歳

アルマでは、飼い主のいる犬猫の引き取りは基本「有料」で引取相談を受けていますが、外での負傷猫や生死に関わる緊急レスキューは無償で行っています。

健全な運営のために、今後も皆様からのご支援、応援をお寄せいただくと幸いです。

2025年1月吉日

一般社団法人アルマ 代表理事

特定非営利活動法人アルマ 理事長

竹本 由実子